※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 98

【様式２】

エントリー学校名：

福島県伊達郡川俣町立福田小学校

活動名：

好きが広がる学校文化作り　－　私が好き・学校が好き・地域が好き　－

解決すべき課題：

- 保守的な児童が多く、自己肯定感が低い傾向がある。
- 児童同士の関係が固定化し、ちょっとした言動でもめてしまうことがある。
- 特別な支援が必要な児童への対応や事務仕事の増大により、教職員のゆとりが少ない。
- 前年度までの成果やベテランの先生方の経験が、教職員の退職や異動で少しずつ失われていく。

目標・方針：　児童が自分の「好き」を広げ、学校が持続発展していく仕組みをつくる。

- 児童の「**やってみたい**」を引き出し、実践や発信へとつなげることで自己肯定感を高める。
- その場限り、その年限り、その人限りで終わらない**持続性のある取り組み**を目指す。
- もともとあった学校の強みや良さを生かすことで、児童や教職員の負担をできるだけ軽減する。

活動内容：

1　６学年「アンスリウム kidsPR 大作戦」（総合 他）

- 調べ学習から、川俣町でアンスリウムという花が栽培されていることに気づかせる。また、苗の植え付け体験や生産者へのインタビュー活動を通して、生産者の思いや願いに触れ、「自分達もこの花の存在を PR し、一人でも多くの人に手にとってほしい」という気持ちを引き出し、発信への意識を高める。

2　異学年での交流　（特別活動　他）

- 異学年での交流を学校行事だけでなく、教科学習や特別活動でも意図的に実践する。小規模校である本校の強みを生かして、低中高の枠を超えた異学年での交流を加速させる。

3　カリキュラム評価

- 学校運営ビジョンを手がかりにカリキュラム全体を評価し、次年度に活用できるようにする。

活動の成果：

- アンスリウム PR・・・東京で生産者とともに PR 会を実施した。花の特徴や栽培方法など、自分達の学習をもとにした発表となった。取り組み方を変えながら平成３０年度より４年間継続中。
- 異学年での交流・・・授業はもちろん、休み時間にも学年を超えて活動したり助け合ったりするようになった。
- 児童に「どうしたい？」と問い返す場面が増え、教師が「やらせる」のではなく「サポートする」ような立ち位置に変化したことで、児童は「次は〇〇してみよう。」とより能動的になった。
- カリキュラム評価・・・教師がより学校運営ビジョンを意識するようになったので、「チーム福田小」として学級運営や学校運営にあたるようになった。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

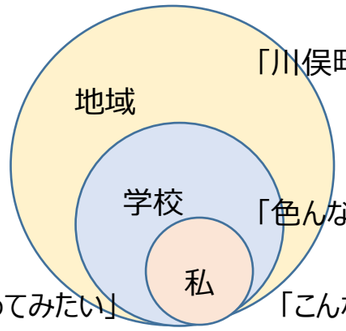
- 学びが学校で完結することなく、地域など外に向かっているところ。
- 新しいことを１から始めるのではなく、今ある学校の強みを分析して学校改善に取り組んでいるところ。
- カリキュラム評価に合わせて、安易な前年度踏襲がなくなったこと。

課題

- 保守的　自信のなさ
- 人間関係の　固定化
- 特別な支援
- 教職員の　ゆとり
- 教職員の異動・退職　１年で約４０％

目標・方針

児童が「好き」を広げられる学校をつくる



「川俣町のために」
「色んな友達と一緒に」
「こんなことができるんだ」
「次は〇〇してみたい」
「やってみたい」
「なんだかできそう」

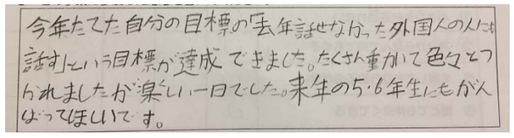
教職員も「好き」な学校にしたい

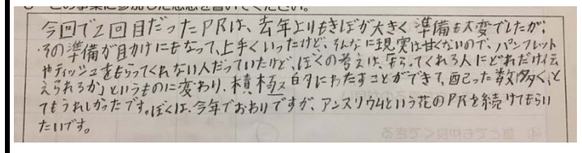
①**学校の強み**を分析・共有
②「**やってみたい**」を引き出す授業づくり
③児童の活動を**サポート**
④**他者評価**のフィードバック
⑤教科等横断的な
カリキュラム・マネジメント

活動内容

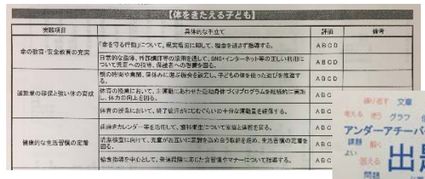
【東京日本橋での PR 活動の様子】

【６学年国語科×３学年図画工作科】


今年たてた自分の目標の「去年話せなかった外国人の人に話す」という目標が達成できました。たくさん集まって色々とつられましたが楽しい一日でした。来年の5・6年生にもがんばってほしいです。


今回で2回目だったPRは、去年よりきぼうが大きく準備も大変でしたが、その準備が積み重なって上手くいったけど、なかなか現実は甘くないので、パンフレットやティッシュを配ってくれない人だっていたけど、ぼくの考えを、知ってくれる人にどこまで伝えられるかというものに変わり、積極的に自分にかたすことができて、面白った教訓でもうれしかったです。ぼくは、今年でおわりですが、アンスリウムという花のPRを続けてもらいたいです。

【カリキュラム評価】



成果

アンスリウムを通して自分が住む川俣町への関心を高め、多くの人に知ってもらいたいという目的のために色々な友達と協力しながら、PR 当日を迎えた。当日は、初めての体験に戸惑いながらも「できる自分」と出会い、自信をつけた児童が多くみられた。

国語で書いた作文を見せあう、お楽しみ会に招待しあう、休み時間に一緒に遊ぶなど、学年や男女を越えたあたたかい児童同士のつながりができた。

学校運営ビジョンと照らし合わせながら、カリキュラムを選んだり組み合わせたりすることができるようになった。